

解説書



採譜・解説 / 卜毛藤田

目次

はじめに4

注意事項&練習方法5

PART 1

ピッキング/ミュート編6

exercise 1 a)b)c) 1音ストローク・エクササイズ1(5弦)7

exercise 2 a)b)c) 1音ストローク・エクササイズ2(3弦)9

exercise 3 a)b)c) 2音ストローク・エクササイズ1(6・5弦/5・4弦)11

exercise 4 a)b)c) 2音ストローク・エクササイズ2(4・3弦、ガイド・トーン)13

exercise 5 a)b)c) 3音ストローク・エクササイズ1(2・3・4弦)15

exercise 6 a)b)c) 3音ストローク・エクササイズ2(1・2・3弦)17

PART 2

リズム・トレーニング編19

exercise 7 a)b)c) 4分音符の長さアクセントのコントロール19

exercise 8 a)b)c) 8分音符を使った音の長さアクセントのコントロール22

exercise 9 a)b)c) 3連系のリズムの長さアクセントのコントロール24

exercise 10 a)b)c)d)e) ハンド・タッピングによる16分音符のコントロール27

PART 3

基本グルーヴ・トレーニング29

exercise 11 a)b) スウィング・グルーヴ(Root-3rd-7th)30

exercise 12 a)b) ブルース進行を使ったスウィング・グルーヴ32

exercise 13 a)b) Root-3rd-7thの転回型コードによるグルーヴ34

exercise 14 a)b) シンプルなフレーズを歌いながら弾くスウィング・グルーヴ36

exercise 15 a)b) 基本ベースラインの把握とコントロール38

exercise 16 a)b) ガイド・トーンのコンピング(3rd&7th)40

exercise 17 a)b) ベースラインを歌いながら弾くガイド・トーンのコンピング42

exercise 18 a)b) ベースラインを弾きながらシンプルなフレーズを歌う43

PART 4

中級グルーヴ・トレーニング44

exercise 19 a)b) 3度の2音を使ったR&Bのフィル44

exercise 20 a)b) 4度の2音を使ったR&Bのフィル46

exercise 21 a)b)c) 6度の2音を使ったR&Bのリフ47

exercise 22 a)b) 2つのメジャー・トライアドを使ったマイナー系のグルーヴ49

exercise 23 a)b) マイナー・トライアドを使ったドミナントのグルーヴ50

exercise 24 a)b)c) ガイド・トーン(3rd&7th)を使ったグルーヴ52

exercise 25 a)b) I度とIV度のトライアドを使ったファンキー・グルーヴ54

PART 5

上級グルーヴ・トレーニング56

exercise 26 a)b) 1弦トップ・ノートのドミナント系グルーヴ(VI度マイナーとV度マイナーのトライアド)56

exercise 27 a)b) 2弦トップ・ノートのドミナント系グルーヴ(VI度マイナー、V度マイナー、IV度、I度のトライアド)58

exercise 28 a)b) 1弦トップ・ノートのマイナー系グルーヴ(4音のボイスイング)60

exercise 29 a)b) 2弦トップ・ノートのマイナー系グルーヴ(コモン・リフ)62

exercise 30 a)b) ファンキーな9thと13thのグルーヴ(「Confidence Cat」のグルーヴ)64

PART 6

トモ流トリッキー奏法67

exercise 31 a)b)c) トモ流高速3連ストローク奏法67

exercise 32 a)b) トモ流ジミヘン&SRV風ファンク奏法69

exercise 33 a)b)c) トモ特製スラップ・ギター71

デモ演奏について74

おわりに76

CDインフォ&通信レッスン紹介77

トモ藤田プロフィール79

はじめに

「演奏能力開発エクササイズ」も、シリーズとなってから皆さんのお陰で好評をいただき、嬉しい限りです。このシリーズは既にもうたくさん作ったし、実はこれで十分だろうと思っていました。でも皆さんのリクエストが絶えず(ありがたいことです)前作のDVD付き書籍「驚異の奏法改革」を作ってからゆっくりする間もなく(笑)、今回ギターの第三弾を作ることになりました。

まず第一弾は、基本練習、音感、読符、リズムのを中心にし、第二弾は、スケール練習、応用、エチュードとソロのことについてやりました。内容は第一弾から第二弾へとレベルが上がるのではなく、まったく違ったトピックスを紹介するものでした。

ですから今回の内容も、第3弾だといって単にレベルが上がるのではなく、僕の一番興味のあるグルーブ、ファンクやR&Bのグルーブに焦点を当ててみました。バンドの中でも、デュオでも、ソロでも、常にグルーブを生み出すエクササイズを中心に収録しました。

もちろんすべてバークリー音楽院におけるファンクのクラスやプライベート・レッスン、また実際の演奏で役に立った実践的で演奏能力を開発・向上させるエクササイズが中心です。ファンクのグルーブと言っても、テクニク的にリズム感を出す練習から、ファンク以外の違うスタイルのグルーブをマスターしてファンクに役立てるようなものまであります。

でも目的は、これまでと同じく楽しくギターが弾けるようになること、自由自在にグルーブがコントロールできるようになることです。エクササイズによっては、いきなりファンクのグルーブをするのではなく、多少単調なことやテクニク的なこともあります。でもそれを無理をしないでゆっくりと練習することによって、今までやってきたことが、また今からやるのがすべてスムーズに感じられていくはずですよ。

上達のポイントは、焦らずにマイペースでやること。なるべく自分の演奏を録音して確認すること。最初は、誰でも自分自身の演奏にガックリくることもあります。そして周囲に振り回されたりプレッシャーを感じたりしないで、自分自身を信じることもとても大切です。“必ずいつか自分の理想のプレイに近づける”と信じてがんばってください。とにかくゆっくり丁寧に練習しましょう。

今回もよりたくさんの方の材料を限られた時間内に入れるために、DVDでは極力セリフを少なくしました。詳しくは解説書のほうで解説していますので、最初にDVDだけ見た方は、解説書のほうを参考にしてください。

たくさん材料が入っていますが、すべてをマスターしなくても、少しずつマイペースでやってください。日本人はみんな真面目ですから、全部できないとだめだと思える人が多いのですが、そんなことはないですよ(笑)。それでは、今回もがんばってやってください。僕も遠くながら応援しています。

注意事項 & 練習方法

いくつか練習・演奏を始める前に伝えておきたいことがあります。

*今回のテーマはグルーブなので、単にエクササイズを練習するというよりも演奏としてのサウンドを心掛けましょう。

*演奏の大半は譜面のパターンを2回リピートしていますが、主に2回目は多少自由な感覚でプレイしています。

*TAB譜のミュート記号(x)は、なるべく正確に記してありますが、実際の演奏ではフィーリングを重視してプレイしているため、多少の違いがあると思います。みなさんも譜面だけにこだわらず、フィーリングを重視してミュートを行ってください。

*良いトーンで演奏するために必ずアンプに通して弾くこと。

*アンプの設定は、トレブルは上げ気味、ミドルがあれば真ん中くらい、ベースは少し抑え気味にする。

*クリーンな音を得るために、マスター・ボリュームがあればフルにして通常のボリューム側で設定する。

*ギター側のトーンはいつもフルで、ギターのボリュームはフルではなく、4から6くらいが良いと思います。

*ギターのメンテも大事で、どこを弾いてもフレットにビビリが無いこと。

*1か月以上弦を変えていなければ弦が死んでしまうため、特にリズムを弾くには効果がないです。ひんぱんに変えるほうがピッチも安定してリズムもキレがよくなります。弦は、0.10~0.46のものを僕も使っており、このゲージが一番お勧めです。僕のは、ダダリオの0.10からのセットです。

*ピックも重要で、小さいジャズ・ピックや1ミリ以上のブ厚いピックは、ファンクのリズムには向いていません。好みもありますが、ティアドロップ型の1mmくらいのセルロイドのピックをお勧めします。僕は、ピックボーイのTOMO藤田シグネチャー・モデルのピックを使っています。先が通常のピックよりも少し鋭くて、ファンクのリズムにぴったりです。

*肝心のギターですが、これも好みがありますが、ストラトのようなシングル・コイル系のギターがファンクのグルーブには一番良いと思います。僕の生徒達も、ほとんどストラト系のシングル・コイルにしてからは上達もかなり早いです。

*シングル・コイルでも、ノイズレスのハム(シングル・サイズのハムバックিং)はファンクのトーンには適していないと僕は思います。ハムバックিংはゲインが大きいので、もしどうしてもハム系のギターを使う場合は、ピックアップの高さを少し低くするとトーンがスムーズになります。

*特にストラトの場合、ピックアップの高さをあまり高くするとピックアップのマグネットが弦を引っばってサステインがなくなり、響きが鈍くなるので注意してください。

*定期的に自分の演奏を録音してよく聴いてください。自分の演奏を知ることが上達のコツです。何か気がつくことによって、やり方や目的も具体化していきますから(長く弾いたらうまくなるものではないです。“量より質”です)。

PART1 ピッキング／ミュート編

まず最初は、ファンクやR&Bのタイトなグルーヴに欠かせないテクニックのひとつである左手によるミュートと右手のピッキングのコントロールについて取り上げます。

ファンクと言えはコードを弾くのが一般的ですが、弾いている以外の音を左指でうまくミュートできないとタイトな音にはなりません。

ですからこのセクションでは、右手ピッキングは大きく振り、ミュートは左指だけでコントロールできるように効果的なテクニックを学びましょう。

<注意事項>

今回取り上げたようなシンプルな音使いの練習にもコツがあり、ただ単にパターンを弾くだけではなかなか効果が上がりません。ですから以下の点に注意してこのエクササイズを行いましょ。

●左指は各指を弦からあまり離さない(浮かさない)ようにする

左指の動きが大きく、力が入っていると、どうしても他の弦が鳴ったりしてノイズが出やすいので気をつけましょ。

●左指は常にリラックスさせて不必要な力を入れないようにする

左指に力が入っていると移動がスムーズに行えず、力が入っているために弦をいつもプリング・オフさせたようになり、ノイズが出たりピッチがシャープしたりするので、いつもリラックスしてプレイすることを心掛けましょ。

●左手親指は、あまりネックの上方向(ヘッド方向)に上げすぎないこと

なるべく親指は弦を押さえている指の裏側くらいに軽く置く感じで、あまり強く握らないほうが良いです。軽めにしておかないと、ポジション移動がスムーズに行えません。

●右手ピッキングは大きく振ること

ファンクをプレイする時、初心者や中級者の中には他の弦のノイズを防ぐために右手ピッキングを小さく振る人がいますが、小さく振ってしまうときちんとオルタネイトにならなかつたり、グルーヴ感がなかなか出ません。したがって右手ピッキングは大きく振り、ミュートはすべて左指で行いましょ。

●両手のタイミングに注意する

ギターは両手を使って音を出すわけですから、この両手のタイミングを大切に、いつも体を動かしてテンポを感じて弾くようにしましょ。両手のタイミングに慣れたら、今度はメトロノームに合わせて安定したタイム感を身に付けましょ。

●ゆっくり無理せず練習する

ゆっくりと言っても、テンポは普通速くなってしまう。無理をしないという意味は、両手の動きやタイミングがすべてスムーズになっているということです。もしも少しでも音が途切れたり、他の不必要な弦が鳴ってしまう場合は無理をしていることとなります。ですから最初はメトロノームなしで、ゆっくり確実に弾けるようにがんばって下さい。

exercise 1

1音ストローク・エクササイズ1(5弦)

♩=55

- 左手人差し指で弾く時のミュート
- 左手小指で弾く時のミュート
- 左手人差し指と小指のコンビネーションで弾く時のミュート

a)

b)

c)

<主な目的>

●左指のミュートをタイトにするためのエクササイズです。また、基本的なオルタネイト・ピッキングを安定させることが目的でもあります。

●弾いている以外の弦が鳴らないようにピッキングするのは楽ですが、逆に右手の振りが小さくなってしまいうためにグルーヴ感があまり出ません。したがって右手ピッキングは、弦全体に対してリラックスして大きく振るようにしましょう。

<練習方法>

●ミュートはすべて左指でコントロールします。

●ここでは5弦を使っていますが、6弦を使ってみるのも良いですし、慣れたらシンプルなベースラインやリフのようなものを弾くのも良いでしょう。

●a)は、左手人差し指で弾いている音よりも高い音は人差し指の裏側でミュートし、6弦は人差し指の先で軽く触り、さらに残りの指で5弦以外が鳴らないようにうまくミュートします。

●b)は、左手小指以外の指を弦から離さないようにしてミュートします。さらに小指の裏側で高い弦もミュートします。

<ポイント>

●常に2本の指を使った2点ミュートができるとハーモックス音が出ません。

●注意する点は、左指に力が入りすぎないこと。力が入り過ぎると、6弦などを押さえ過ぎてしまって音が鳴ってしまいます。

●音の移動の際に左指があまりフレットから離れ過ぎないように注意しましょう。

●使っていない指もなるべく弦から離さないようにすれば、きれいなミュートが可能です。

exercise 2

1音ストローク・エクササイズ2(3弦)

♩=56

a) 左手人差し指で弾く時のミュート

b) 左手小指で弾く時のミュート

c) 左手人差し指と小指のコンビネーションで弾く時のミュート

a)

b)

c)

<主な目的>

●ファンクでよく使う、3弦を使った左指のミュートに慣れるためのエクササイズです。

●1・2・3弦の単音を弾いても、他の弦がタイトにミュートできるようにするためのエクササイズです。

<練習方法>

●右手ピッキングは、なるべく6・5弦はヒットしないようにしますが、4弦から1弦までは、しっかりと弦全体にピックが当たるようにしましょう。

●一番最初はミュートすることが難しく、ノイズもたくさん出ますが、右手は大きく振り、ノイズを左指できれいにミュートできるようにしましょう。その際、両手のタイミングにも注意してゆっくりと行ってください。

<ポイント>

●右手ピッキングに不必要な力が入らないように注意してリラックスして弾きましょう。

●c)は、左手人差し指と小指が入れ代わる時に、左指全体があまりフレットから離れないように注意してください。

●速くプレイしてしまうと、どうしてもノイズが出やすくなりますから、最初はゆっくりと焦らずに弾きましょう。

exercise 3

2音ストローク・エクササイズ1(6・5弦/5・4弦)

♩=57

a) 6弦ルートのパワー・コードでのミュート

b) 5弦ルートのパワー・コードでのミュート

c) a) b)のコンビネーションによるミュート

a)

b)

c)

<主な目的>

●パワー・コードを使って、弾いている以外の弦をタイトにミュートするためのエクササイズです。

<練習方法>

- 弦を押さえている以外の左指で他の弦をしっかりとミュートしましょう。
- ここでの8分音符は、すべてダウン・ストロークでプレイします。
- b)は、5弦を押さえる時に左手人差し指の先を少し出して6弦をミュートし、また中指・薬指でも不必要な音をミュートするようにします。

<ポイント>

- 右手ピッキングは、リラックスして大きく振るようにしましょう。
- 4分音符にも長さはいろいろありますから、長さやタイミングに注意して弾きましょう。
- ポジション移動の際も、左指があまりフレットから離れないようにしましょう。

exercise 4

2音ストローク・エクササイズ2(4・3弦、ガイド・トーン) ♩=56

- a) A7のガイド・トーンにおけるミュート
- b) D7のガイド・トーンにおけるミュート
- c) A7とD7のガイド・トーンのコンビネーションにおけるミュート

a)

b)

c)

<主な目的>

●4・3弦をコードのガイド・トーン(コードに対して3rdと7thの音)として弾き、他の弦が鳴らないようにミュートするためのエクササイズです。ブルースやファンクでもよく使われます。

<練習方法>

●a)ではA7の3rd(C#)と7th(G)の音、b)ではD7の3rd(F#)と^b7th(C)の音、c)ではそれらのコンビネーションをガイド・トーンとして使って弾きます。

●弾いている以外の弦があまり鳴らないように工夫してください。

●左手人差し指と薬指を使って弾いていますが、中指がいつも弦から離れないようにして、不必要な音を出さないようにミュートしましょう。

<ポイント>

●6・5弦は、なるべくヒットしないようにしましょう。

●弾いている音がコードに対して何度であるかを理解しましょう。

●シャッフルのブルースなどでとても使いやすいものです。ブルースやファンクなどでもよく登場する進行なので、うまくきれいにミュートができるようにしましょう。

exercise 5

3音ストローク・エクササイズ1(2・3・4弦)

♩=57

- a) 左手薬指で弾く時のミュート
- b) 左手人差し指で弾く時のミュート
- c) a)b)のコンビネーションによるミュート

a)

b)

c)

<主な目的>

●小さなコード(2・3・4弦)を弾く時に、不必要な他の弦がタイトにしっかりとミュートできるようにするためのエクササイズです。ファンクでよく使われます。

<練習方法>

●a)では左手薬指を使い、b)では人差し指を中心にして2・3・4弦を弾きます。いずれも押さえていない指を弦に近づけて他の弦をミュートします。

●ミュートする指は、弦から離れないようにしてリラックスさせて1弦側から6弦側までミュートします。

●右手ピッキングは大きく振りますが、ピックに力を入れ過ぎないようにしましょう。

<ポイント>

●弾く音の長さ、ミュート時のノイズ(ハーモニクスが出ていないかどうか)をよくチェックしましょう。

●b)のサウンドは、CのトライアドかAm7の $\flat 7$ th、 $\flat 3$ rd、5thとしても解釈できます。

●左指に力が入るとなかなかグルーヴ感も出せないなので、パターンが無理なくスムーズにプレイできるまでは、焦らずにゆっくりと練習しましょう。特に8分音符で弾く部分は、16分音符を弾く準備としてとても大切ですから、ゆっくりと練習して下さい。

exercise 6

3音ストローク・エクササイズ2(1・2・3弦)

$\text{♩} = 56$

- a) 左手薬指で弾く時のミュート
- b) 左手人差し指で弾く時のミュート
- c) a)b)のコンビネーションによるミュート

a)

b)

c)

<主な目的>

●ファンクやブルースで出てくる小さなコードリフを、左手薬指や人差し指を使って1・2・3弦を弾き、他の弦をうまくミュートするためのエクササイズです。

<練習方法>

●a) では左手薬指を使い、b) では人差し指を中心にして1・2・3弦を弾きます。

●全体にあまり6・5弦を弾かないようにするほうがスムーズなサウンドになります。

<ポイント>

●ミュートする時に、左指全体が弦から離れないようにしましょう。

●b) は、コードのサウンドとしてはAmの \flat 3rd、5th、Rootとしても考えられますし、D7の \flat 7th、9th、5thとしても解釈できます。

●ファンクではよくこの動きでコードを弾きますから、ここでも16分音符の準備段階としてゆっくり丁寧に弾きましょう。

●c) の3小節目からの8分音符は、動きが硬くならないでリラックスして弾くことが大事です。

PART2 リズム・トレーニング編

ここではパート1で学んだミュートのコントロールを使って、様々なリズムのパターンに慣れるためのエクササイズに取り組みます。

いきなりグルーブから入るのではなく、このようにグルーブ・トレーニングの準備運動という目的で、多少メカニカルなリズム・トレーニングを行うことにより、グルーブの基本となるリズムの構造を理解し、マスターしましょう。また、単にギターを弾く以外にも手を叩いたりして体を使ってリズムを感じ取り、コントロールするエクササイズもありますから、ギターを弾く前にどれだけ体でリズムがコントロールできるかトライしてみましょう。

exercise 7

4分音符の長さやアクセントのコントロール

- a) 4分音符の長さの違いをコントロール ♩=52
 b) バックビートのアクセントをコントロール(トライアドを使って) ♩=56
 c) アクセントの移動をコントロール ♩=58

a)

b)

c)

<主な目的>

●シンプルな4分音符でも、音の長さやリズムのアクセントを自由にコントロールできるようになるためのエクササイズです。

<練習方法>

●右手ピッキングはリラックスして大きく振り、すべてのミュートは左指でコントロールします。

●コードやノートを弾く時に、左指に不必要な力が入らないように注意しましょう。

●b)は、弾くコードがトップの1~4弦なので、なるべく6・5弦をヒットしないようにしましょう。ただし、6・5弦は鳴りやすいので注意してミュートしましょう。

<ポイント>

●コードを弾く時は、力を入れ過ぎないことと、コードが変わる時に弦のノイズが出ないように指を弦からあまり離さないようにします。

●b)は、1~4弦を使ったトライアドを3つの転回型でやっています。CD付き教則本「演奏能力開発エクササイズ~エレクトリック・ギター」などでもトライアドのこと取り上げていますので参考にしてください。これはファンク以外にもとても便利です。

●c)は、休符のところもピッキングを大きく(空振り)するほうがリズムをキープしやすいです。

exercise 8

8分音符を使った音の長さやアクセントのコントロール

- a) 8分音符の長さの違いをコントロール ♩=67
- b) バックビートのアクセントをコントロール ♩=52
- c) アクセントの移動をコントロール ♩=58

a)

Chords: D, A, G

Tablature: T, A, B

b)

Chords: C, Am, F, G, C, Am, F, G, Eb, Cm, Ab, Bb

Tablature: T, A, B

c)

Chords: D, A, G, C, Am, F, G, C, Am

Tablature: T, A, B

<主な目的>

●ダウンビート&アップビートを含む8分音符の長さやリズムに、自由にアクセントを付けられるようになるためのエクササイズです。

<練習方法>

●右手ピッキングはリラックスして大きく振り、ダウン&アップとオルタネイトでプレイします。

●アップビートは走りがちになるので、できればメトロノームを使い、無理のない程度にテンポを設定し、キープして練習しましょう。

●a)の8分音符は、1回目を長めに、2回目を短めに弾いてみましょう。

<ポイント>

●b)は、トライアドの動きや転回型などを、エクササイズのテンポで弾く前にゆっくりと予習し、ポジションに慣れることが大事です。また、これらのトライアドのアイデアを自分の好きな曲の中でのコードやソロなどに応用してみましょう。

●c)は、4分音符と8分音符のコンビネーションのパターンですが、これはファンクによく出てくる16分音符のリフを半分の8分音符に置き換えたものです。ですから、16分音符もこのようなゆっくりとしたテンポで弾けるようになると、しっかりとした基本が身に付き、16分音符のリズムも自然とよくなります。

exercise 9

3連系のリズムの長さやアクセントのコントロール

a) 3連符の長さをコントロール ♩=75

b) シャッフル・フィールのアクセントをコントロール ♩=50

c) アクセントの移動をコントロール ♩=80

a)

b)

c)

<主な目的>

●様々な3連符において、長さやアクセントのコントロールが自由になれるためのエクササイズです。

<練習方法>

●基本的に3連符は、ダウン／アップ／ダウンのリピートでピッキングします。

●a)の8分音符は、前半を長めに、後半を短めに弾いてみましょう。

●b)は、ダウンビートもアップビートも両方ダウン・ピッキングで弾きます。ブルースからR&Bでもすぐに使えるトライアドを使ったパターンです。

<ポイント>

●3連符は、ダウン／アップ／ダウン、ダウン／ダウン／アップ、常にす

べてオルタネイト、という3つのチョイスがありますが、すべて自由にこなせるようにしましょう。

●c)は、基本的なピッキング・パターンがマスターできないと難しいですから、焦らずにゆっくりと練習してください。

exercise 10

ハンド・タッピングによる16分音符のコントロール

♩=45

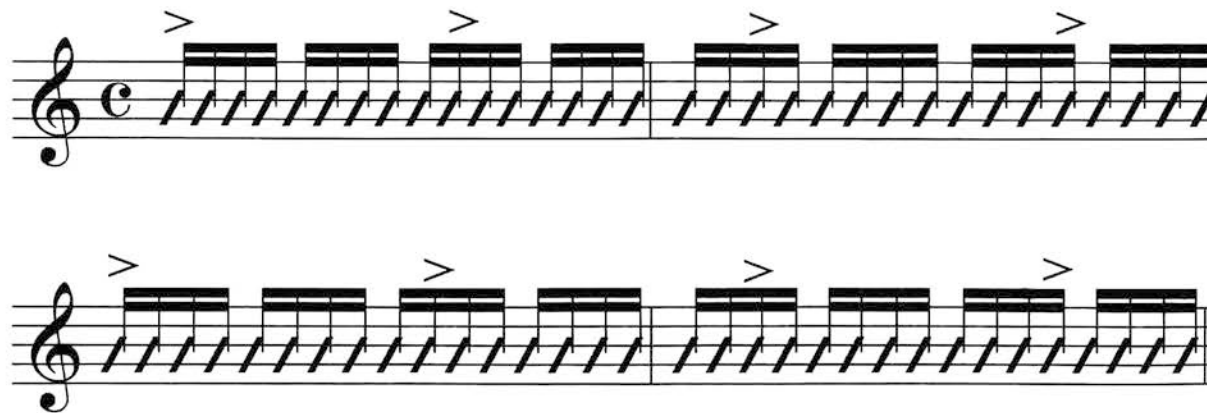
- a) 4つの16分音符のアクセント移動1(2小節ごと)
- b) 4つの16分音符のアクセント移動2(1小節ごと)
- c) 4つの16分音符のアクセント移動3(2拍ごと)
- d) 4つの16分音符のアクセント移動4(1拍ごと)
- e) コンビネーション・グルーヴ・エクササイズ

a)

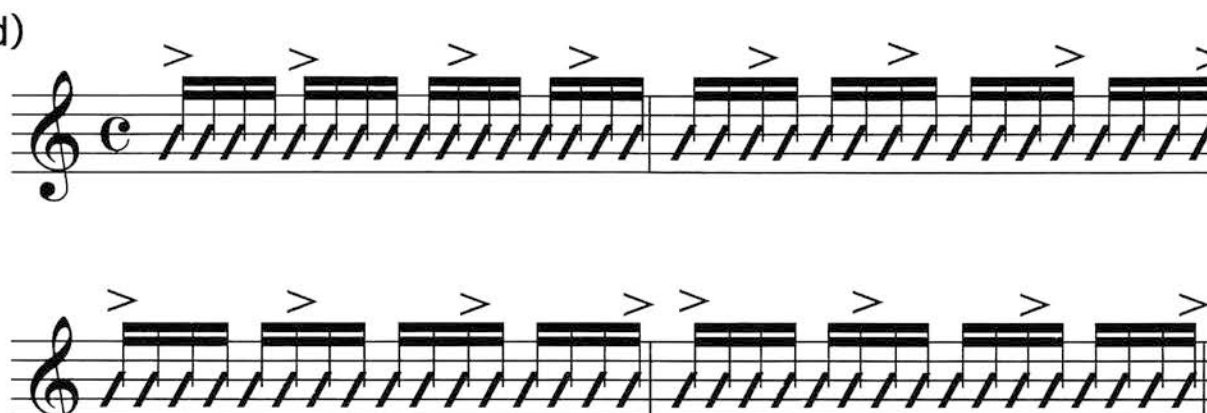
b)

PART3 基本グルーブ・トレーニング

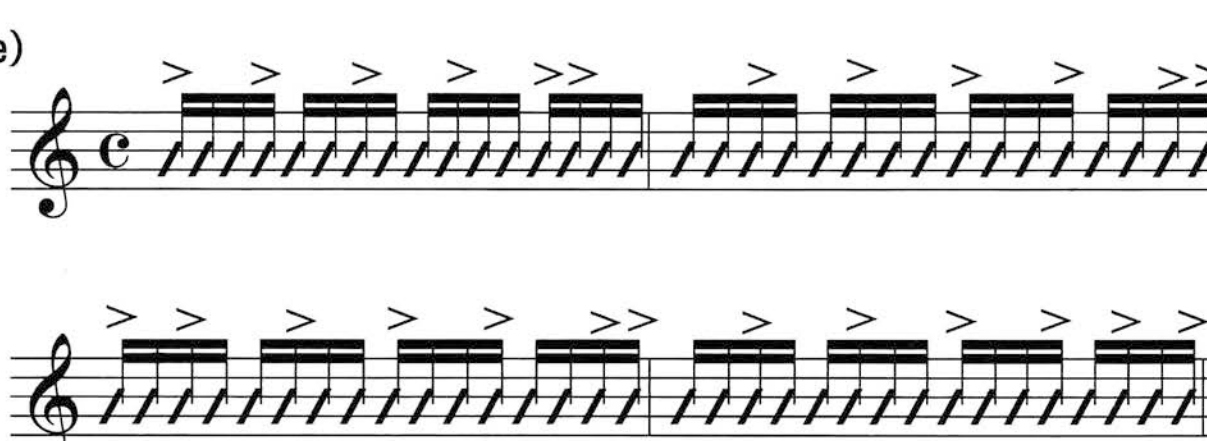
c)



d)



e)



<主な目的>

- 16分音符の様々なビートのアクセントを体で感じ、手のタッピングによってリズムを表現・グルーブできるようになるためのエクササイズです。
- ギターを持つ前に、体だけでリズムが自由にグルーブできるかどうかをチェックするエクササイズでもあります。

<練習方法>

- 16分音符を手のタッピングでRLRL(右左右左)の順で叩き、アクセントの部分だけを少し強調します。
- まずはa)、b)、c)をゆっくりとよく練習し、それに慣れてからd)、e)をゆっくり練習すると良いでしょう。

<ポイント>

- 手はリラックスさせて軽く叩くようにしましょう。
- 最初は、4つのアクセントに慣れるためにa)、b)を中心に無理のないテンポでゆっくり練習すると効果があります。

グルーブというのはなかなか言葉では表現しにくく、言葉で理解できたとしても実際に体験してみないと実感しにくいものです。ここではその理解しにくい“グルーブ”の基本をマスターします。

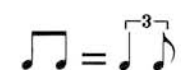
そのためには、ギターのパート以外の他の楽器をよく聴くこと、回りをよく理解することが大切なことです。よってここでは、自分のパートを他の楽器とコミュニケーションするために歌ったり、グルーブで重要なベースラインを実際に弾いてみたり、歌ってみたり、またシンプルなフレーズを歌いながら自分のパートも弾き、全体のバンド・サウンドを想像しながらグルーブをコントロールしていきます。

また、ここではファンクやR&B以外のグルーブもいくつか紹介します。良いグルーブには、国境の境は無く、ジャンルの違いとかも関係なく、すべてのグルーブはどこかで関連しています。ファンクやR&Bがこなせるドラマーやベーシストは、必ずと言って良いほどシャッフルやスウィングもプレイできます。

したがって、ここではブルース、スウィングやシャッフルのグルーブを理解し、ファンクやR&Bのリズム感、グルーブ感を向上させるのが目的です。

<譜面に関する注意事項>

特にブルース進行の場合、1回目は譜面通りに弾いていますが、リピートの2回目は自然な感じでグルーブしているため、多少アドリブっぽく弾いています。また、このパートで紹介するエクササイズはすべてスウィング系・シャッフル系のリズムなので、8分音符はすべて次のようなフィールで弾いてください。



exercise 11

スウィング・グルーヴ (Root-3rd-7th)

♩=50

- a) B^b7のグルーヴ (6弦ルート)
- b) E^b7のグルーヴ (5弦ルート)

a)

b)

Voicing

	B ^b 7	B ^b m7	B ^b Maj7
T	3rd	b3	M3
A	b7	b7	M7
B	R	R	R
T	7	6	7
A	6	6	7
B	6	6	6

	E ^b 7	E ^b m7	E ^b Maj7
T	b7	b7	M7
A	3rd	b3	M3
B	R	R	R
T	6	6	7
A	5	4	5
B	6	6	6

<主な目的>

●Root-3rd-7thの基本コードを学び、スウィングのグルーヴを使って左手の効果的なミュートと安定した右手のピッキングをコントロールすることが目的です。

●6弦ルートと5弦ルートの安定したフォームも学びます。

<練習方法>

●ゆったりとしたスウィングのフィールでグルーヴします。カウント・ベイシーのようなスウィングのビッグバンドなどをイメージすると良いでしょう。

●左指はリラックスさせて最小限の力で弾き、右手のピッキングは弦に対して軽く大きく振ります。

<ポイント>

●各コードの3つの音がしっかりと出ているかよく確認しましょう。

●a)、b)以外にもメジャー7thとマイナー7thコードがあり、それぞれ5弦ルートと6弦ルートがあります(譜例“Voicing”参照)。これらのフォームを理解すればスタンダード曲などもすぐに弾けるようになります。

exercise 12

ブルース進行を使ったスウィング・グルーヴ

a) B^bブルースのグルーヴ ♩=52

b) B^bブルースのグルーヴ(ダウン・ピッキング中心) ♩=55

a)

System 1: B^b7, Eb7, B^b7

System 2: Eb7

System 3: B^b7, F7

System 4: Eb7, B^b7, F7

b)

System 1: B^b7, Eb7, B^b7

System 2: B^b7, Eb7, Eb7

System 3: B^b7, B^b7, F7

System 4: Eb7, B^b7, F7

<主な目的>

- スウィング・グルーヴのミュートをマスターし、ブルースのフォームを身につけます。
- 何も考えなくてもブルースの進行が自然に弾けるようになるためのエクササイズです。

<練習方法>

- a)のB^bブルースはダウン&アップのピッキングでストロークし、裏拍はミュートで弾いてグルーヴさせます。
- b)も同じくB^bブルースですが、こちらのほうはダウン・ピッキングが中

心です。特に早いテンポの時は、こちらのほうが使いやすいです。

<ポイント>

●a)は、裏拍をアップ・ストロークで弾いています。これはミュートが確実にコントロールできているかを確認するために強調していますが、実際の演奏ではb)のように、あまりアップを入れすぎると忙しくなるので気を付けてください。

●ここでは、コードのタイプは、Root-M3rd-b7のドミナント7ですが、Ex.11のように他にマイナー7thやメジャー7thもこのように弾けますので、これらを覚えるとスタンダード曲などもすぐに弾けるようになります。

exercise 13

Root-3rd-7thの転回型コードによるグルーヴ

a) B^b7とE^b7の転回形グルーヴ ♩=55

b) B^bブルースの転回形グルーヴ ♩=57

a)

B^b7 B^b/D E^b7 E^b7/B^b

b)

B^b7 E^b7/B^b B^b7

b)のつづき

B^b/D E^b7 E^b/G

B^b7 B^b/D G^b7/D^b F7/C F/A

E^b7/B^b B^b7 F7/C

Inversion

B^b7 B^b/3rd B^b7/5th

E^b7 E^b/3rd E^b7/5th

<主な目的>

●ビッグバンドのコンピングにもよく使われる、Root-3rd-7thの転回形コードに慣れるためのエクササイズです。

●同じコードのパターンでも、転回形を使うことによってハーモニーのセンスを養い、幅を広げるのが目的です。

<練習方法>

●まずは、B^b7コードのRootからのポジション、3rdからのポジション、5thからのポジションを覚えてからエクササイズに取り組んでグルーヴしましょう。

●6弦ルートと5弦ルートのコードに慣れたら、B^bのブルース進行でプレイし、グルーヴしましょう。

<ポイント>

●ここでは練習のためにたくさんの転回形を紹介していますが(譜例“Inversion”)、実際の演奏では使い過ぎに注意しましょう。

●コードのフォームが頻繁に変わるので、左指があまりフレットから離れないように注意してください。

exercise 14

シンプルなフレーズを歌いながら弾くスウィング・グルーヴ

a) B^b7一発でグルーヴしながらフレーズを歌う ♩=55

b) フレーズを歌いながらB^bブルースのグルーヴを弾く ♩=56

a)

Exercise 14a musical notation showing a guitar part with a B^b7 chord and a vocal line. The guitar part consists of a single chord with a rhythmic pattern of eighth notes. The vocal line is a simple melody in the key of B^b major. The tempo is marked as ♩=55.

b)

Exercise 14b musical notation showing a guitar part with a B^b blues progression and a vocal line. The guitar part consists of a sequence of chords: B^b7, E^b7, E^b7/B^b, B^b7, E^b7, B^b7, F7, F7/C. The vocal line is a simple melody in the key of B^b major. The tempo is marked as ♩=56.

Sing

<主な目的>

●演奏をするために大切な“回りを聴く耳”を養い、自分のパートも余裕を持ってコントロールできることが目的です。またフレーズを歌いながら弾くことによって、より深いグルーヴ感をもって弾くことができるようになるためのエクササイズです。

<練習方法>

●a)は、譜例“Sing”のフレーズを歌いながら、B^b7のグルーブを弾きます。

●b)は、同じく譜例“Sing”のフレーズを歌いながら、余裕をもってB^bのブルース進行が弾けるようにします。

<ポイント>

●始めは両方を同時に行うことは難しいですから、各パートに慣れるまではゆっくりと行いましょう。

●歌う時の音程は、プロのシンガーのように歌うことが目的ではありません。ピッチのことよりも、リズムがはっきりと歌えるかどうかをチェックしましょう。

exercise 15

基本ベースラインの把握とコントロール

♩ = 55

a) シンプルなラインのブルース・ベースライン

b) クロマチックなラインで流れるブルース・ベースライン

a)

b)

Variation

<主な目的>

●アドリブをする上でもしっかりとブルース進行上のベースラインを把握し、また弾けるようになるためのエクササイズです。さらに正しいベースライン以上に“ベースらしさ”をうまく出して、ノリを良くすることも目的です。

<練習方法>

●a)は、なるべくシンプルなベースラインをリピートすることにより、安定したコード感とノリを出します。

リピートした2回目は、譜例“Variation”のスウィングする8符音符によるベースラインで弾いてみましょう。

●基本ベースラインができるようになったら、b)のクロマチックなベースラインでスムーズな流れを生み出してみましょう。

<ポイント>

●シンプルなことでも硬い感じで弾くとフィールも硬くなりますので、十分リラックスして弾くように心掛けましょう。

●特にクロマチックなラインの時は、左指があまりフレットから離れないように注意してください。

exercise 16

ガイド・トーンのコピング(3rd&7th)

♩=55

a) ガイド・トーン基本グルーヴ(A7)

b) ガイド・トーン応用グルーヴ(Aブルース)

a)

Changes

b)

<主な目的>

●3・4弦を使ったガイド・トーングルーヴで、コール&レスポンスのようなリズムをコントロールしてグルーヴさせることが目的です。

●ガイド・トーンだけを使ってコード進行を感じるようにします。

<練習方法>

●a)は、まず3・4弦を使って左指だけでうまくミュートするコツをつかんでからエクササイズに取り組み、グルーヴしましょう。

●b)は、ブルース進行を感じながらガイド・トーンだけでブルース進行を弾きます。

<ポイント>

- ガイド・トーンにはルートがないので、弾いているコードのルートをよく感じ、全体のコード感を把握するようにしてください。
- I度7からIV度7へ行くガイド・トーンは半音下がるだけですが、一応各コードの度数も理解するようにしましょう(譜例“Changes”参照)。
- ガイド・トーンのコンピングは硬くなるとまったくグルーブしませんから、全体にいつもリラックスするようにしましょう。

exercise 17

ベースラインを歌いながら弾くガイド・トーンのコンピング ♩=58

- a) シンプルなベースラインを歌いながら弾くガイド・トーン(Aブルース)
- b) クロマチックなベースラインを歌いながら弾くガイド・トーン(Aブルース)

a)

The diagram shows three systems of musical notation for exercise 17a. Each system consists of a treble clef staff with a key signature of two sharps (F# and C#) and a common time signature (C). Below the staff are three lines representing guitar strings: T (Treble), A (Middle), and B (Bass).
System 1: Labeled 'A7' and '2'. The treble staff shows a simple bass line: A4 quarter note, G4 quarter note, F#4 quarter note, E4 quarter note. The guitar chords are A7 (x02221) and A7 (x02221).
System 2: Labeled 'D7' and 'A7'. The treble staff shows a simple bass line: D4 quarter note, C#4 quarter note, B3 quarter note, A3 quarter note. The guitar chords are D7 (x02202) and A7 (x02221).
System 3: Labeled 'E7', 'D7', and 'A7'. The treble staff shows a simple bass line: E4 quarter note, D4 quarter note, C#4 quarter note, B3 quarter note. The guitar chords are E7 (x02210), D7 (x02202), and A7 (x02221).

<主な目的>

- ガイド・トーン(3rd&7th)をグルーブさせながらベースラインを歌っても、ベースラインに(またはガイド・トーンに)つられないで自分のパート

がコントロールでき、グルーブできるようになることが目的です。

<練習方法>

- a)は、まずはガイド・トーンのグルーブに慣れ、次にEx.15a)のベースラインを歌いながらこのEx17a)を弾き、両方のパートをグルーブできるようにしましょう。
- b)は、Ex.15b)のクロマチックなブルースのベースラインを歌いながら、Ex.16b)のガイド・トーンによるブルースのコード進行を弾きます。

<ポイント>

- まずはガイド・トーンのコンピングのミュートやリズムがしっかりとプレイできることと、ベースラインのピッチに気をつけることが大切です。
- 3rd&7thのコンピングは、慣れてきたら多少アドリブっぽく弾いても良いでしょう。

exercise 18

ベースラインを弾きながらシンプルなフレーズを歌う ♩=60

- a) シンプルなベースラインを弾きながらフレーズを歌う
- b) クロマチックなベースラインを弾きながらフレーズを歌う

a)

The diagram shows two systems of musical notation for exercise 18a. Each system consists of a treble clef staff with a key signature of two sharps (F# and C#) and a common time signature (C).
System 1: Labeled 'a)'. The treble staff shows a simple bass line: A4 quarter note, G4 quarter note, F#4 quarter note, E4 quarter note. The melodic phrase is: A4 quarter note, G4 quarter note, F#4 quarter note, E4 quarter note, D4 quarter note, C#4 quarter note, B3 quarter note, A3 quarter note.
System 2: Labeled 'b)'. The treble staff shows a chromatic bass line: A4 quarter note, G#4 quarter note, F#4 quarter note, E4 quarter note, D4 quarter note, C#4 quarter note, B3 quarter note, A3 quarter note. The melodic phrase is: A4 quarter note, G4 quarter note, F#4 quarter note, E4 quarter note, D4 quarter note, C#4 quarter note, B3 quarter note, A3 quarter note.

<主な目的>

- ベースラインを弾きながらホーン・セクションのようなフレーズを歌っても、それにつられないで歌えるようにするのが目的です。

<練習方法>

- a)は、Ex15a)のベースラインを弾きながらフレーズを歌います。
- b)は、Ex15b)のベースラインを弾きながらフレーズを歌います。

<ポイント>

- ベースラインを弾くことが自然になり、シンプルなフレーズやリズムを歌ってもそれらにつられないようにゆっくりと練習しましょう。
- これらがマスターできたら、ウォーキング・ベースラインを弾きながらシンプルなメロディーを歌ってみましょう。

PART4 中級グルーヴ・トレーニング

ここからは、R&Bやファンクで頻繁に使われる、2音(3rd、4th、6th)を使ったメジャー系やマイナー系のグルーヴから、3音のトライアドを使ったドミナント系やマイナー系のシンプルなヴォイスイングのグルーヴ・エクササイズです。これらは全ての弦による大きなコードではなく、2・3音による小さなコードで、すぐに使えるグルーヴを集めましたのでゆっくりと学んでください。

<注意事項>

ここからいよいよ16分音符がたくさん出てきてファンキーになりますが、同時にコードの動き(基本的には2音か3音ですが)とそれに関連した音やリズムも少しずつ複雑になっていきます。特に左手のミュートがきちんとコントロールできていないと、雑音が多くなる部分も出てくると思います。ですから、フレーズとフレーズの間などでノイズが多い場合は、焦って速く弾かないようにくれぐれも注意して下さい。細かいことをやってもテクニックが雑であると、いくら練習しても向上しない時があります。そのためには以前にやったことを常に復習してみるのが良いでしょう。このパートも、最初はかなりゆっくりとしたテンポから始めると良いと思います。

exercise 19

3度の2音を使ったR&Bのフィル

♩ = 44

- a) メジャー7thコードの3度のフィル・グルーヴ
b) マイナー7thコードの3度のフィル・グルーヴ

a) EMaj7

b)

Em7

<主な目的>

●歌もののR&Bでよく弾かれる、デヴィッド・T・ウォーカー風の3度の定番リフをうまくこなせるようになるためのエクササイズです。

<練習方法>

●a)は、EMaj7のコードを主体に、スライド部分は1・2弦を使ったアルペジオのサウンドで、1弦のトップ・ノートが9th-M7th-5thと下がっていきます(2弦は、M7th-5th-M3rdとなります)。全体にソフトに弾いて、スライドにも力が入らないようにしましょう。

●b)は、Em7のコードを主体に、1・2弦を使ったアルペジオのサウンドで、トップ・ノートが9th-b7th-5thと下がっていきます(2弦は、b7th-5th-M3rdとなります)。フレーズは少し短めに弾いてみましょう。

<ポイント>

●ある程度ギターのパフォーマンスは上げておき、ピッキングの方でダイナミクスをつけながらやさしくフィルを弾くことが大事です。

●いくら正しいパターンやフレーズを覚えて一生懸命弾いても、フィーリングや歌心がないと味が出ません。単なるパターンの羅列にならないように注意してください。また“歌の間”をよく感じるようにしましょう。

exercise 20

4度の2音を使ったR&Bのフィル

a) メジャー系の4度のフィル・グルーヴ ♩=70

b) マイナー系の4度のフィル・グルーヴ ♩=72

a)

b)

<主な目的>

●R&Bからジミ・ヘンドリックスまで、よく使われる4度のフィルインが、メジャー系とマイナー系両方のコードで自由に使えるようになるためのエクササイズです。

<練習方法>

●a)は、サウンドとタイミング重視のフレーズなので、まずメジャー・コード上のサウンドをよく把握してからパターンを弾くようにしましょう。スライドやハンマリングは、いつもソフトに弾きましょう。

●b)は、4度の形以上に、マイナー系のコード・サウンドとしての4度のリフに慣れるようにしましょう。同じく左指に力が入らないように注意してください。

<ポイント>

●メジャー系もマイナー系も、同じ形のリフで弾けるようにエクササイズを作りました。同じ形やサウンドでも、弾くコードによって響きや機能が変わるので、そのことをゆっくりと味わって弾きましょう。

●動きの大きいリフなので、左指があまり大きく動かないように注意しましょう。

exercise 21

6度の2音を使ったR&Bのリフ

a) メジャー系のコードに合う6度のリフ ♩=72

b) ドミナント系の6度のファンキー・リフ ♩=50

c) マイナー系のコードに合う6度のリフ ♩=72

a)

b)

c)

E Mixolydian

<主な目的>

●R&B特有の6度の音を使ったダブル・ストップのリフを、いろいろなコードのタイプに合わせて弾けるようになるためのエクササイズです。

<練習方法>

●a)は、メジャー・コードに対してトップ・ノートがRoot-2nd-3rd、ボトムが3rd-4th-5thと上がっていきます。6度のパターンに慣れるように、ゆっくりと弾きましょう。

●b)は、ドミナント・コードに対してフィットした6度のリフです。スケールで言うと、Eのミクソリディアン(Root、2nd、3rd、4th、5th、6th、^b7th)を6度のインターバルで弾きます(譜例“E Mixolydian”参照)。まずはサウンドとポジションに慣れてからリズムに弾きましょう。

●c)は、マイナー系のサウンドです。少し音が多いですが、サウンドの特徴をよく感じてから弾きましょう。これもあらかじめコードに対する6度のサウンドに慣れておくと便利です。

<ポイント>

●ここに出てくるポジションやキーはすべてではないので、同じことを違うキーや違う弦、違うポジションでも弾いてみましょう。

●これらのサウンドは、ソロのアイデアとして使うとコード感が出て良いでしょう。

exercise 22

2つのメジャー・トライアドを使ったマイナー系のグルーヴ

a) CとDのトライアドを使ったAm7のグルーヴ ♩=53

b) GとAのトライアドを使ったEm7のグルーヴ ♩=55

a)

b)

<主な目的>

●2・3・4弦や1・2・3弦で弾ける2つのメジャー・トライアドを使って、マイナー系のファンク・グルーヴに慣れるためのエクササイズです。

<練習方法>

●a)は、2・3・4弦を使ったC($\flat 7$ 、 $\flat 3$ 、5th)とD(Root、4th、6th)のトライアドで、Am7のファンキーなグルーヴをプレイします。16分音符を歯切れ良く弾くために、最初はゆっくりと弾いてください。

●b)は、1・2・3弦を使ったG($\flat 7$ 、 $\flat 3$ 、5th)とA(Root、4th、6th)のトライアドで、Em7のファンキーなグルーヴをプレイします。コードから単音に変わる部分で、弾いている音以外の音がスムーズにミュートできるようにしましょう。

<ポイント>

●これらのトライアドは、度数でいうとそのコードに対して、 \flat III度とIV度のトライアドになります。例えば、Aに対してCトライアドは $\flat 7$ 、 $\flat 3$ 、5th、DトライアドはRoot、4th、6thとなります。

●各トライアドには3つの転回型がありますから、2つのトライアドで合計6つのサウンドが弾けます。ほとんどスケールにボイスングをした感じです。僕はこれらをよく使います。

exercise 23

マイナー・トライアドを使ったドミナントのグルーヴ

a) AmとGmのトライアドを使ったC7のグルーヴ ♩=55

b) EmとDmのトライアドを使ったG7のグルーヴ ♩=53

a)

b)

<主な目的>

●1・2・3弦や2・3・4弦で弾ける2つのマイナー・トライアドを使って、ドミナント系のファンキーなグルーヴに慣れるためのエクササイズです。

<練習方法>

●a)は、1・2・3弦を使ったAm(Root、3rd、6th)、とGm($\flat 7$ 、9th、5th)のトライアドで、C7のファンキーなグルーヴをプレイします。ジェームス・ブラウンのホーン・セクションのような感じで弾きましょう。人差し指

と薬指を中心に弾きます。

●b)は、2・3・4弦を使ったEm (Root, 3rd, 6th)とDm (♭7, 9th, 5th)のトライアドで、G7のファンキーなグルーヴをプレイします。スライドは左指をリラックスしてプレイしましょう。

人差し指・中指・薬指の指使いで、なるべく人差し指はフレットから離れないようにしましょう。

<ポイント>

●これらのトライアドは、度数でいうとそのコードに対して、VI度マイナー (Root, 3rd, 6th)とV度マイナー (♭7, 9th, 5th)のトライアドになります。

●1・2・3弦側を弾く時は、なるべく6・5弦は弾かないようにしますが、それでも左指で弾かない弦をミュートするようにしましょう。

●ここでも、各トライアドには3つ転回型がありますから、2つのトライアドで合計6つのサウンドが弾けます。ほとんどミクソリディアンのスケールにボイスिंगをした感じです。いろいろなチョイスができるので、とても便利です。

exercise 24

ガイドトーン(3rd&7th)を使ったグルーヴ

♩=53

- a) グルーヴの元になるファンキー・ベースライン
- b) 基本ガイドトーンのグルーヴ
- c) 応用ガイドトーンのグルーヴ

a) A7

b) A7

c)

<主な目的>

●3・4弦で弾くことができるシンプルなガイドトーン (3rd&7th) だけを使って、グルーヴをコントロールできるようになるためのエクササイズです。

<練習方法>

●a)は、まずこのガイドトーンでグルーヴしやすいように、よくあるファンク・グルーヴを学びましょう。オルタネイトのピッキングで弾けるようにしてください。

●3・4弦を使ったガイドトーンのグルーヴは、ミュートに気をつけてグルーヴしましょう。

<ポイント>

●ピッキングは、1から4弦まで大きく振り、6・5弦はなるべくヒットしないようにしましょう。

●ミュートの時は左指全体を弦に軽く触れ、ミュートがタイトになるようにしてください。

exercise 25

I度とIV度のトライアドを使ったファンキー・グルーヴ ♩=53

- a) I度とIV度のトライアドによる基本ファンキー・グルーヴ
- b) I度とIV度とV度マイナーのトライアドによる応用ファンキー・グルーヴ

a)

b)

<主な目的>

●2・3・4弦で、I度とIV度のトライアドを使ったファンキーなグルーヴが自由に弾けるようになるためのグルーヴです。

<練習方法>

●a)は、2・3・4弦を使い、ピアノのような(またはホーン・セクションのような)コードの動きのグルーヴをマスターしましょう。

●b)は、少しパターンが違うだけでフィールも微妙に変わります。a)とパターンは似ていますが、V度マイナーが入った部分をしっかりと聴き分けて弾けるようにしましょう。

<ポイント>

●ここに出てくるI度のトライアドは、普通のRoot-3rd-5thではなく、b7-3rd-5thで、真ん中の3rdの音をb3からM3へハンマリングします。そして人差し指でうまく1弦をミュートしましょう。

●I度からIV度への動きがひんぱんに出てきますので、左指に力が入らないように気をつけましょう。

PART5 上級グルーヴ・トレーニング

いよいよ上級グルーヴ編です。ここではパート3で学んだグルーヴを、よりファンキーな16分音符のリズムでプレイし、またパート4で学んだトライアドなどのボイス面をさらに発展させていきます。ここではリズムもさらにもっと細かく、ピッキングもトリッキーに、テンション・ノートも多く取り入れ、特に1弦や2弦をトップ・ノートにしたボイス・リーディングのセンスも磨いていきます。さらに、3音から4音を使ったコードや、ハーモニー的に発展させたコード・ソロ的なものも紹介していきます。

exercise 26

1弦トップ・ノートのドミナント系グルーヴ(VI度マイナーとV度マイナーのトライアド) ♩=54

- a) G7一発のグルーヴ
- b) Gブルースの発展グルーヴ

a) G7

b) G7

C7

G7

D7 C7

G7

<主な目的>

●パート4で学んだドミナントのためのマイナー・トライアド、VI度マイナー(Root、3rd、6th)とV度マイナー(b7、9th、5th)を、それぞれの転回型を使って1弦をトップ・ノートにし、自由に移動できるようになるためのエクササイズです。

<練習方法>

●a)は、1・2・3弦を使って、Em(VIm)とDm(Vm)のトライアドを中心に弾きます。

●b)のG7の部分はa)と同じですが、C7の部分では新たにC7に対してAm(VIm)とGm(Vm)が加わり、D7の部分はC7と同じパターンの全音上を弾きます。

<ポイント>

●1弦トップ・ノートのトライアド(1・2・3弦)と2・3・4弦(I&IV)のトライアドが交互に出てきますので、コードを変える時に低音弦(6・5弦)が鳴らないように注意しましょう。

●ポジションやパターンだけに頼らず、必ず一度はルートに対するコードの度数の確認をしてください。

exercise 27

2弦トップ・ノートのドミナント系グルーヴ(VI度マイナー、V度マイナー、IV度、I度のトライアド) ♩ = 54

a) A7一発のグルーヴ

b) Aブルースの発展グルーヴ

a)

b)

<主な目的>

●ドミナントのためのVI度マイナー、V度マイナー、IV度、I度のトライアドを使ったグルーヴを、2弦をトップ・ノートでコントロールできるようにするためのエクササイズです。

<練習方法>

●a)は、2・3・4弦を中心に、F#m(VIm)、Em(Vm)、D(IV)、A(I)のトライアドがスムーズに流れるようにフレット上を横移動させます。

●b)は、最初の4小節はa)と同じで、ブルース進行の、IV度コードに変わった時に、D7の部分でAm(Vm)、G(IV)、D(I)、D9を弾いてグルーヴします。

<ポイント>

●右手ストロークは、5弦くらいまで当たってしまいますから、不必要な弦をうまく左指でミュートしましょう。

●D7からのパターンも、トップ・ノートはA7の時と同じ音を弾いていますから、これらもスムーズに弾けるように、またミュートにも気をつけてください。

exercise 28

1弦トップ・ノートのマイナー系グルーヴ(4音のボイスング) ♩=54

a) Am7一発的なグルーヴ

b) Aマイナー・ブルースの発展グルーヴ

a)

Am7

T: 10-10-10-10 X X X | 7-7-7-7 X X X

A: 8 8 8 8 | 5 7 5 | 5 5 5 5 | 5 7 5

B: 7-7-7-7 | 5 7 5 | 5 5 5 5 | 5 7 5

T: 10-10-10-10 X X X | 7-7-7-7 X X X

A: 8 8 8 8 | 5 7 5 | 5 5 5 5 | 5 7 5

B: 7-7-7-7 | 5 7 5 | 5 5 5 5 | 5 7 5

b)

Am7

T: 10-10-10-10 X X X | 7-7-7-7 X X X

A: 8 8 8 8 | 5 7 5 | 5 5 5 5 | 5 7 5

B: 7-7-7-7 | 5 7 5 | 5 5 5 5 | 5 7 5

Dm7

T: 3 3 3 3 | 5 5 5 | 7 7 7 7 | 7 7 7

A: 3 3 3 3 | 5 5 5 | 8 8 8 8 | 8 8 8

B: 3 3 3 3 | 5 5 5 | 7 7 7 7 | 7 7 7

Am7

T: 10-10-10-10 X X X | 7-7-7-7 X X X

A: 8 8 8 8 | 5 7 5 | 5 5 5 5 | 5 7 5

B: 7-7-7-7 | 5 7 5 | 5 5 5 5 | 5 7 5

FMaj7 E7

T: X X 12 8 5 | X X 10 7 4

A: 10 10 10 7 3 | 10 7 3 9 6 3

B: 8 8 10 7 3 | 7 7 9 6 3

Am7

T: 5 7 8 10 | 12 10 8 7 5 X X X

A: 5 7 9 11 | 12 10 8 7 5 7 5 X X X

B: X X X X | X X X X 9 7 5

<主な目的>

●1弦をトップ・ノートにした4音のボイスングを使って、マイナー系のコードでトップ・ノートを自由に動かし、グルーブできるようにするためのエクササイズです。

<練習方法>

●a)は、1弦をトップ・ノートにした4音のボイスングですので、音の並びに慣れてグルーブしましょう。トップ・ノートが11thと9thとの交互になるパターンです。

●b)は、最初の4小節はa)と同じですが、Dm7ではトップ・ノートが11th-5th-6th- \flat 7と上行するパターンになっています。9・10小節目は少しジャズっぽく、トップ・ノートが各コード共に似た感じの動きになります。ジョー・パスやウェス・モンゴメリーのようなコード・ソロっぽい動きです。

<ポイント>

●最初の4小節は、トップ・ノートが1弦のボイスング(1・2・3弦)と2・3・4弦を使ったトライアドとを交互に弾きますので、左指がなるべくフレットから離れないように注意しましょう。

●各コードではトップ・ノートがコード音やスケール上を上行・下行できるように弾いていますので、これをヒントに自分なりに作ってみるのも良いと思います。

exercise 29

2弦トップ・ノートのマイナー系グルーブ(コモン・リフ) ♩=52

a) Em7一発的なグルーブ

b) Eマイナー・ブルースの発展グルーブ

a)

Em7(9)

B7(b13)

b)

Em7(9) B7(b13)

Em7(9) E7(#9)

Am7 B7(b13)

Em7(9)

C7(13) B7(b13)

Em7(9) C7(13) B7(b13)

b)

c)

<主な目的>

●僕の曲「Just Funky」などで僕がよくやるトリッキーな3連符の速いパターンを、コードからベースラインまでも理解し、グルーブできるようにするためのエクササイズです。

<練習方法>

●a)は、E7(9)を使って16分の3連符をアップ/ダウン/アップの方向

で弾きます。右手の手首を少し使って、リズムを微妙にずらします(細かくは、DVDのほうでチェックしてください)

●b)は、僕がよくやるベースラインの上行パターンでの16分音符ですが、3つの音をひとつのグループとしてダウン/ダウン/アップでピッキングします。3拍で16分音符が12個ありますから、この3つの音のパターンを4回繰り返すとおもしろいリズムになります。

●c)は、レッスンやクリニックでも一番質問の多いパターンです。譜面とDVDで確認して、がんばって弾いてください。

<ポイント>

●16分の3連符はかなりトリッキーですから、最初はゆっくりと練習し、まずはピッキングの方向に慣れてください。また、リズムが突っ込まないように注意しましょう。

●右手ストロークで正確に3連符を弾くことはそれほど難しくはないですが、微妙なニュアンスを出すのが難しいと思います。僕のやり方は、全部がはっきり鳴っているのではなく、右手の手首をつかってピックが弦にひっかかる感じで弾いています。

exercise 32

トモ流ジミ・ヘン&SRV風ファンク奏法

♩=57

a) ジミヘンのコード・リフ・グルーブ

b) SRV的コード・リフ・グルーブ

a)

b)

Cm7

h 3

T
A
B

2

T
A
B

<主な目的>

●個性的なブルース・ロックの演奏で定評のあるジミヘン(ジミ・ヘンドリクス)とSRV(スティーヴィー・レイ・ヴォーン)の特徴を使った、ベース・リフのミュートとグルーヴをコントロールできるようになるためのエクササイズです。

<練習方法>

●a)は、もうお馴染みのジミヘン・コード(E7(#9))のリフですが、6弦オープンとコードの交互によるグルーヴから、16分の3連符も付け加えました。ゆったりとグルーヴしましょう。

●b)は、SRVがよくやるコードとリフの混ざったグルーヴで、さらに16分の3連符のリフを入れてグルーヴします。コードをタイトに弾き、シングル・ノートやトライアドのリフもピッキングを大きく振って、全体にタイトなノリになるようにしましょう。

<ポイント>

●最初は、3連のトリッキーな部分を入れないで普通にグルーヴしてみましょう。

●ゆったりと安定したグルーヴで弾き、3連のリフを入れる時にリズムが前に走らないように注意しましょう。

exercise 33

トモ特製スラップ・ギター

- a) リム・ショットを使ったドラミングを想像したグルーヴ ♩=60
 b) ハイハットのようなトリッキーな3連を入れたグルーヴ ♩=60
 c) スウィング・ファンクでの高速6連符のグルーヴ ♩=47

a)

RLRLH P RLRLHPP RLRLH P RLRLHPP

T
A
B

h h h

0 0 4-5 0 0 5-5-7 0 0 4-5 0 0 7-5

2

T
A
B

b)

RRLH P RLHP HPP RLH P RLHP HP RLHPP

T
A
B

h h h h h h

0 0 4-5 0 5-7 5-5-6 0 4-5 0 5-7 5-6 7-5

2

T
A
B

c)

Slap

<主な目的>

●スラップ・ギターの基本テクニックを学び、スラップを使っていろいろなグルーブが自由に弾けるようになるためのエクササイズです。

<練習方法>

●まずは、譜例“Slap”を見てください。スラップ・ギターの4つのサウンド／弾き方が記してあります。Rは右手親指によるサムピング、Lは左手でフレットをタッピングするミュート音、Hは右手の爪で弦を叩く、Pは右手人差し指によるプリング(またはプランキング)です。DVD「演奏能力開発エクササイズ1」と、CD付き書籍「演奏能力開発エクササイズ エレクトリック・ギター」の方にもスラップ・ギターについて詳しく紹介したセクションがあります。参考にしてみてください。

●a)の基本的なグルーブをゆっくりとしたテンポから始め、両手のコン

ビネーションがリラックスしながら弾けるようにしましょう。

●b)は、まず1小節目のグルーブをリピートし、十分慣れてから2小節目のトリッキーな3連符・6連符のフレーズにチャレンジしましょう。

●c)は、ゆったりとしたスウィングっぽいファンクのグルーブでドラミングを意識したフレーズを弾き、6連符では、Hの弦を叩くのとPの弦をプルするコンビネーションに慣れましょう。

<ポイント>

●ギターの弦はベースよりも細いので、6弦のオープンをより響かせるためには、右手親指で弦をヒットした後すぐに弦から離さなければなりません。

●左指のミュートは、ピッチが出ないようにソフトにミュートするようにしましょう。

デモ演奏について

Opening - Wah Wah groove:

オープニングのデモ演奏はAm7一発のグルーヴで、ワウを使っているなところにアクセントを付けてみました。僕は、最近ワウがますます好きになっていますが、個人的にはドラムと一緒にグルーヴしたり、ドラムやパーカッション的にアクセントを付けたりしています。ワウの楽しさや無限な可能性が伝わったら嬉しいですね。

demonstration 1:

早いテンポのスウィングのグルーヴです。僕の好きなタイプのグルーヴで、一人であってもビッグバンドのようなフィールで弾きました。コードはRoot、3rd、7thを中心に、2コーラスをグルーヴしてから同じテンポでファンキーにプレイしました。これができるとファンクも間違いなくうまくなりますよ。練習では、こんな感じに同じテンポでいろんなフィールを弾くのが好きです。使用してるギターは、志田涼さんが手作りで作ってくれたRyo Guitarです。まるでギターが自分にプレイをさせてくれるような、箱鳴りのいいトーンをしています。実は家で弾くギターは、ほとんどフルアコかアコギです。

demonstration 2:

これは僕の得意とするE7一発のグルーヴです。僕の曲「Cat Walk」のグルーヴ・パターンを中心に、ベースラインや3連符フレーズなどをいろいろ混ぜて弾いてみました。このようなコード一発の曲でも、何かストーリーのような流れやテーマが大事ですね。アンプのセッティングは、ストラトの時と同じくそのまま、ギターはCombatのST WARM (TOMO藤田仕様、ネックの握りとヴォリュームの位置が違う)を使って弾きました。メトロノーム相手ですが、いつも通りドラマーとやっている感じで弾きました。

Ending-「Just Funky」 Solo guitar version:

最後のデモは、やっぱり「Just Funky」にしました。メトロノームに合わせてやっていますが、バンドで演奏している感覚で弾いています。ですから、実際に演奏している時はメトロノームのことはまったく気にしておらず、それよりも楽しくリズムにノルことに専念しました。演奏能力書籍CD版の「演奏能力開発エクササイズ エレクトリック・ギター」にはこの曲のギター・スコアもあるので細かく説明しませんが、自分でも実は完璧に弾けないので(笑)、多少のノイズは気にせず、一定の流れと

勢いがあるように弾きました。もちろんファースト・テイクです。パートがかなり細かいので、何回も弾くと疲れますし、最初から間違っても1回と願っていました。(笑)。

この曲は原形から4回くらい変わってますが、アメリカで学んだファンクのリズムとジャズのハーモニーが混ざり、うまくブルースの色が入って今のようになりました。グルーヴの一番のポイントは、腰の動きです(笑)。腰から弾くギター!

おわりに

このDVDを見てくださった方、ほんとにありがとう! 皆さんのリクエストでこの企画が成り立ったんですから皆さんのパワーには参りました。(笑)

僕の皆さんへのリクエストは、“ギターの設定アップに注意する”、“アンプ直で気持ちいいブルースが弾けるようにする”努力をお願いします。練習や努力以上に大事なポイントもありますから、いつも良いトーンで弾くようにがんばってください。シンプルにギターで自己表現ができるとこれほど面白いことはないのです、これからもお互いにギターを弾き続けましょう!

もうひとつ、「演奏能力」シリーズのポイントの一つは、各DVDやビデオ、CD書籍の全てのエクササイズを完璧に終えようとしないうこと。DVDの場合は第一弾が基礎編、第二弾がソロ・プレイ強化編、そしてこの第三弾がリズム／グルーブ強化編となっていますので、3つ同時進行で、各DVDのエクササイズを自分ができるところからバランス良くやるほうが効果があります。すべて順番に完璧にやるよりも、マイペースにやるのが上達の基本です。

この第3弾も、皆さんにグルーブの楽しさなどが少しでも伝わったら嬉しいです。ギターを弾くことがこれからももっと楽しくなることを心から願っています。感想やコメントあればメールして下さい。

では、ライブやクリニックでお会いしましょう。

2003年5月 藤田智久

Tomo Fujita uses:

EXL110 / D'Addario Strings /

Tomo Fujita's signature model picks by PICKBOY /
Rumble Mod / HAO

Tomo would like to thank:

My Family, Beth, Nathaniel, Samantha and
Michael for their love and smiles.

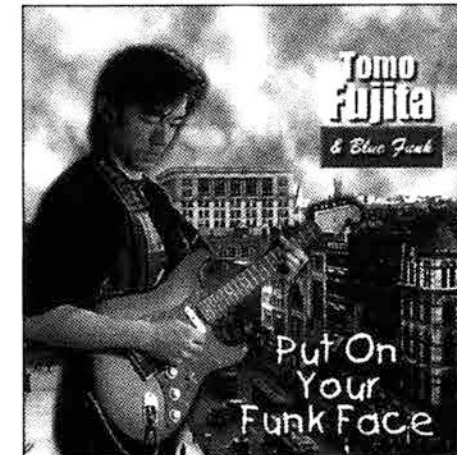
CDインフォ & 通信レッスン紹介

■トモ藤田ホームページ

<http://www.tomofujita.com>

日本語によるホームページ、音源、写真、日記、BBSなど情報満載!

■トモ藤田CD紹介



『Put On Your Funk Face』

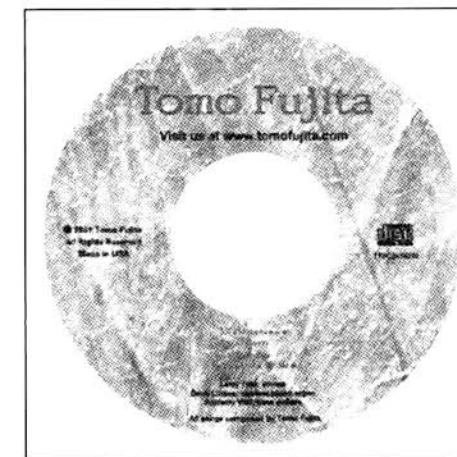
Tomo Fujita & Blue Funk

TFPCD/16252 ¥2,500

収録曲:①Crossing/②Burbank Street/③
Song for Samantha/④Meltdown/⑤Just
Funky/⑥Dreaming of You/⑦Orange
Juice&Water/⑧I Like Your Smile/⑨Cat
Walk/⑩I Have No Clue/⑪Don't Wake Me

メンバー: Tomo Fujita (Guitar)、Dave Limina (Organ,Piano)、Mike Rivard (Bass)、
Larry Finn (Drums)

エモーショナルなグルーブと洗練されたテクニックを併せ持つインターナショナルなギタリスト藤田智久が、バークリー音楽院の講師仲間とともに結成したバンドの1stアルバム。ブルース、ファンク、R&B、ジャズなど種々のスタイルを積極的に取り込み、ジャンルを超えたインストゥルメンタル・ミュージックを展開。



『TOMO FUJITA』

来日記念ミニ・アルバム

TFPCD-16253 ¥1,000

収録曲:①Confidence Cat/②Curry/③
Kyoto/④Mr.Mom (Slap Guitar)

メンバー: Tomo Fujita (Guitar) , Dave Limina (Organ,Piano) ,Anthony Vitti (Bass) ,
Larry Finn (Drums)

※入手御希望の方は、次頁<問い合わせ先>のいずれかに御連絡下さい。

サインがほしい方はトモ藤田まで直接メールをください。サインと譜面のおまけ付きで送ります。

■トモ藤田の個人テープ・レッスン

トモ藤田が日本に住む人達を対象に、テープを使って各個人に対してカリキュラムを作り、個人のニーズに合わせてサポートする個人レッスンです。ですからあらかじめ作られたテープや同じ教材を送る通信講座とは、まったく違います。

興味のある方は、直接Eメールかファックスでトモ藤田に連絡してください。

<システム>

- ①生徒→藤田：デモ・テープ郵送(あらかじめ内容指示します)
- ②藤田→生徒：デモ・テープに対するコメントを詳しく書いてファックスで送信。
その生徒に合ったレッスン課題をテープに録音して必要に応じた材料と共に郵送。
次回の課題内容を詳しく書いてファックス送信。
- ③生徒→藤田：ファックスの感想と課題内容の指示通りに練習を始める。
デモ・テープが届いたら模範演奏を聴く。課題内容をテープに録音して送り返す。

※以上を月1回のサイクルで繰り返すほか、課題内容や練習のポイントやわからないことはEメールやファックスなどでやりとりをする。

<レッスンの主旨>

生徒個人のペースによって内容は変わるが、どんな場合にも基本を重視してどんなスタイルにも対応できるように、テクニク的な要素だけではなく、フィーリングやグルーヴといったエモーショナルな要素もバランス良く取り入れたレッスンにする。

<問い合わせ先>

トモ藤田

Fax: (国際電話認識番号) -1-508-651-1806

E-mail: music@tomofujita.com

(いずれも日本語で可)

日本国内の連絡先：株式会社タウンハウス(担当：宅間)

〒602-8432 京都市上京区猪熊通今出川上ル北猪熊町291番地

Tel: 075-441-6402

Fax: 075-441-8851

E-mail: a-takuma@townhouse.co.jp

藤田智久プロフィール

1965年、京都に生まれる。13歳の頃にCHARに憧れてギターを始め、以来、ジェフ・ベック、ラリー・カールトン、アル・マッケイ、ジョー・パス、B.B.キングなどに影響を受けながら、日夜ギターの練習に励む。18歳の頃にジャズ・ギターを山口武に師事。

86年、21歳で渡米し、バークリー音楽院へ奨学金を得て入学。通学のかたわら多くのレコーディング、ライブ活動をこなす。

90年、“ボストン・ベスト・ギタリスト・コンペティション”(コンテスト)に出場し、3位を獲得。

91年、同コンテストに再度挑戦し、日本人として初の優勝。同年、以前より憧れていたジョー・パスのレッスンも受ける。

92年、<バークリー・ファイブ・ウィーク・サマー・プログラム>と<バークリー・サマー・ギター・セッション>で教鞭をとる。

93年、バークリー音楽院ギター科の講師に正式に就任。<プライベート・レッスン>をはじめ、ブルースやファンクのスタイルを教える<パフォーマンス・スタイル>、<アンサンブル>のクラスも受け持つ。

95年、オリジナル・バンド、TOMO FUJITA&BLUE FUNKを結成。またフィル・コリンズ、マイティ・サム・マックレイ、ロン・レビー、アンディー・ティモンズ、ロニー・アール、ルームフル・オブ・ブルースなど、多くのミュージシャンとステージをともにする。

96年、ファースト・アルバム「Put on your Funk face」をリリース。雑誌ギター・マガジンにて連載コラム「TOMO FUJITA バークリー・コネクション」を執筆。

97年、日本での活動も開始し、各地でライブ、クリニックを展開。全米で大人気のミュージカル「RENT」にギター・プレイヤーとして参加する他、ダリル・ジョーンズと共にクリニックを開催。

98年、バークリー音楽院ギター科の助教授に昇進。5～6月、日本各地で2度目のライブ&クリニックを開催。8月、初の教則ビデオ「ギタリストのための演奏能力開発エクササイズ」を発表。

99年、「演奏能力開発エクササイズ」ドラム編、ベース編、キーボード編の総合監修を担当。6月、日本各地で3度目のライブ&クリニック。

2000年、日本各地で4度目のライブ&クリニック。タイガー大越とのジョイント・コンサート、是方博邦とのツイン・ギター・プロジェクトも行う。教則ビデオ第2弾「ギタリストのための演奏能力開発エクササイズ2」も発売。

2001年、来日記念盤としてミニ・アルバムを発表。ピックボーイからトモ藤田シグネチャー・モデルのピックが発売。教則ビデオ「演奏能力開

発エクササイズ2」ベース編、ドラム編を監修。日本で大好評だった教則ビデオ「演奏能力開発エクササイズ」ギター編、ドラム編、ベース編、キーボード編の4作が、米ハル・レナード社から"Accelerate Your Playing Series" (英語版)としてアメリカ/カナダで発売。

2002年、「ロック・ギタリストのための演奏能力開発エクササイズ」を監修。米バークリー・プレス社から初心者向けCD付き教則本"Instant Guitar"が発売。「演奏能力開発エクササイズ」のギター編1&2、ドラム編、ベース編、キーボード編がDVD化され、同シリーズのギター、ドラム、ベース、キーボード各編のCD付き教則本版も発売。10月、DVD付き教則本「演奏能力開発エクササイズ アコースティック・ギター」を監修。

2003年、新機軸のDVD付き教則本「ギタリストのための驚異の奏法改革」が発売。雑誌ギター・マガジン5月号でCD付き企画「ギタリスト検定〜グルーヴ・マスター編」を執筆。3月に関西限定ツアー、5月に日本各地で恒例のライブ&クリニックを行なう。

『ギタリストのための演奏能力開発エクササイズ3』解説書

■著者・譜面作成：トモ藤田 (Tomo Fujita)

■譜面浄書：山岡 博 (Hiroshi Yamaoka)

■編集：サム・カワ (Sam Kawa)

■DTP：若杉 さおり (Saori Wakasugi) <ANTENNNA>

■企画制作：株式会社リットーミュージック

※無断複製・転載を禁ずる

VWD-244